【発表資料メモ】

文責：小野

●プロダクトの説明

「オンライン時代、幸せになるシステム」

　・制作背景：開発演習を通して先生の苦悩（苦労）と生徒の悩み

　　→講師の1日DM回数平均50件。

　　→開発演習ではセッション希望者続出（DMや質問チャンネルから続々来るためどれから対応していけばよいかわからない。）

　・制作した機能やデザイン面のPR（デモンストレーション）

　・システム導入による期待効果（声と数字）

●プロジェクトの説明

・苦労したこと

　・チームとしての成長

　・個人成長（主観と客観）：課題と成果

　　→名刺管理アプリで発表していた課題と比較してどう成長したか

　　→6月初旬と比較して感じられた他メンバーの変化

　・成果物を通してチームの課題、結果

【メモ】

・デモンストレーションと説明は別の方が良い？

・時間配分：プロダクト、プロジェクト（要件等）

・機能説明は端的にわかりやすく、インパクトを与える

・

【構成】

・システム開発の背景と目的は、テレフォンショッピング風

・ドラえもん：作品と既成画像を比較して成長を伝える

●期待効果

【FAQ】

・質問件数が減って、DMの回答の負担軽減。

→先生と相談（数字で示す）：「〇割の負担軽減を想定」表現。

・（研修生側）調べられるので質問する手間が省ける。

・更新・削除機能があることで、最新の分野（情報）にも対応できる。

　→研修だけの知識ではなく、実務でも役立つような情報を教えることができて講師にとってもハッピー。

・検索機能があることで知りたい内容をピンポイントで調べることができる。（複合検索可）

【セッション予約機能】

・待ち人数がリアルアイムで表示されることで、研修生がストレスなく開発演習に取り組むことができる。

・対応・未対応の処理が行えるので、予約殺到しても現状の人数を把握しやすい。

　→複数人を一括処理が行える便利機能。

・研修生にはわからない暗黙の重要度が講師側に表示されることで、講師が優先順位をつけやすい。

　→本当に困っている研修生が〇割減る。

・リスト、詳細ページに分かれているので、一目で内容把握がしやすい。

・ファイルアップロード機能により、文字だけではわからないエラーを事前にコードを見ることで、解消の効率が上がる。

◎数値で示す場合は、根拠を明確に示す。

●プロジェクトの説明

【チームとして苦労した点】

・チームメンバー間での意見・イメージの相違が頻繁に起こり、進度がダントツで遅くなってしまったこと。

・話し合いが思うように進まず、タイムロスが多かった。→コミュニケーションが円滑にできなかった。

・意見を出す人が少なく、チームとして全体の意見を聞くことができなかった。

・話し合い参加度に偏りがあった。

・担当か所、偏りの差に負担を感じた。（→自分がチームとして貢献できる役割を考え、見つけることができた。）

【チームとしての成長】

・一人一人がチームとして貢献できる役割を考え、見つけることができた。

・

・

【個人の成長と課題】

●まとめ

・チームとして苦労した点：木谷さん（仮）

・プロダクトの説明：市川さん（仮）

・デモンストレーション担当：非同期通信部分の紹介順の工夫：山北さん（仮）